

久しぶりに吉野家の牛丼を食べに家族と出かけた。吉野家では高いものでも知れている。高いのをたのんでいいぞと家族に言った。

メニューを見ると880円「むぎとろ鰻皿御膳」これが一番たかそうだというので私はこれにした。滅多に口にしない鰻もあるし「むぎとろ鰻皿御前」に決めた。今までに無いメニューだ。メニューを開いてみると更に高いうなぎ3枚の「うな重」もあるではないか。前言取り消し。

ご飯の割りにとろろが少ない、その分鰻1枚が頑張ってくれるかと思いながら食べ終わったがなにかものたらない。吉野家は牛丼屋だ、いや、カレーもあるが、本命は牛丼だ。吉野家さんもいろいろやりだしたが、やはり牛丼でなくてはならない。

なのになぜ牛丼を食べたいとってきたのに鰻になってしまったのか。私は物足りない気持ちで車に乗った。

牛丼 16/5/21 Hidekuro



うな重はやめろ

カレー、更にもうなぎにも手をだして特徴がぼけてきた。吉野家は牛丼に。

新聞に夏目漱石の「吾輩ハ猫デアル」が連載されている。「坊ちゃん」は痛快なので何度か読んだがこれは初めてだ。

お椀に食べ残しで貼り付いた餅を食べようとして、今食べなければ一生口にできないだろう「今でしょう」ということでかぶりついた。これがいけない餅が歯に貼りついて取れない前足で取ろうとして猫踊り、御三がとってくれるまでやむなく猫踊りが止まらない。家族皆が笑っている苦しかった。ところで明治時代は今と異なり難しい言葉・漢字がでてくる。「天佑」は今も生きているようだ一般につかわないだけ。死語に近いかな？

司馬遼太郎の「坂の上の雲」日露戦争でバルチック艦隊を日本の連合艦隊が撃滅したとき旗艦の参謀を務める秋山真之が「天佑」であったと知っているがわからないままにしていた。

天佑の意味は夏目漱石が説明している平たく言えば「天の助け」ということらしい。

明治時代は普通に使われていたらしい。猫までつかっている。

天佑 16/5/1 Hidekuro

